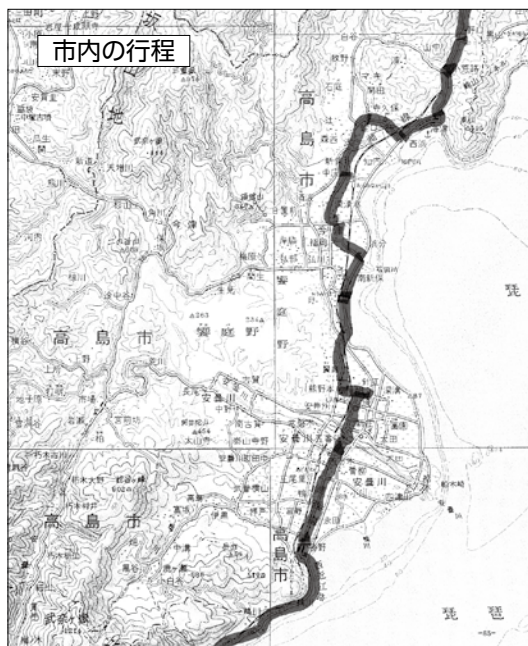


# 蓮如上人御影道中

## 蓮如の御影が吉崎別院へ

毎年4月18日の午後、リヤカーに積まれたきらびやかな輿を中心とした南から北へ向かう30人余りの一行が、鶴川の白鬚神社前に差し掛かります。この一行は、蓮如の御影(肖像)と共に、京都の東本願寺から福井県の吉崎別院へ向かう人々で、湖西路の春の風物詩ともなっています。

「蓮如上人御影道中」と呼ばれ



広報たかしま

平成30年

4

月号  
No.219

るこの行事は、本願寺第8世蓮如の没後、蓮如の北陸での布教の苦勞を偲んで吉崎御坊(別院)で行なわれた年忌法要のために、蓮如の御影が京都から吉崎へ運ばれたことに始まると伝えられています。以来、年忌法要に合わせて、供奉人と呼ばれる人々が、約240kmの道程を御影と共に歩む仏事として、300年以上の間続けられていると言われています。

## 道中の行程

一行は、毎年4月17日に東本願寺を出発し、琵琶湖西岸の道を北上し、途中、沿道の真宗寺院に立ち寄り、蓮如の教えを伝えながら、18日の午後、高島市内に入ります。その日は勝野の寺院で一泊し、19日は新旭町、今津町の寺院に

立ち寄りながら北へ向かい、夕方にはマキノ町に至ります。マキノ町では蛭口の寺院で一泊し、20日の昼には福井県敦賀市に入り、23日には、あわら市の吉崎別院に到着します。

蓮如は、室町時代中期の浄土真宗の僧で、民衆の側にたった分かりやすい教化活動を行い、多くの人の崇敬を集めました。しかし、本願寺の勢力が拡大することを恐れた比叡山延暦寺から攻撃を受け、文明3年(1471年)5月、蓮如は京を離れることを決意し、近江(滋賀県)を通って越前(福井県)に向かうことになりました。

## 蓮如の腰掛石

市内には、蓮如にまつわる伝承地が多くあり、その一つである打下集落の南端、三尾崎の中腹には「蓮如の腰掛石」と呼ばれる石が残されています。これは、蓮如の北陸への旅の途中、籠を担いでいた一人が腹痛を起こし、しばらく



休憩をとることにした時、蓮如が腰かけた石だとされ、蓮如はここから眼前に広がる琵琶湖を眺めて旅の疲れを癒したと伝えられています。

図文化財課 ☎(32) 4467

## 編集 雑感

日中、窓から見える景色がだんだんと色づき、ぽかぽかとした陽気が伝わってくる季節となりました。

暖かいから大丈夫!と思い薄着で外出してしまうと、夕方や夜にかけて急に気温が低くなることもしばしば。卒業や進級、入学など色んなことが変化し、「次へ」と進むこの時期だからこそ、体調にはよくよく気を付けたいものです。体力を少しでもつけるために、春を見つけに家の周辺を散策するのもよい運動になるかもしれませんね。(M)

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課  
〒250-0293 滋賀県高島市新旭町北畑ののり畠地

☎0740(25)8000(代)  
http://www.city.takashima.lg.jp  
✉t:info@city.takashima.lg.jp